

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100159		
法人名	(有) 介護サービス サンセイ		
事業所名	グループホーム いこいの家 北山		
所在地	静岡県富士宮市北山 4777-1		
自己評価作成日	令和4年 3月 7日	評価結果市町村受理日	令和4年 5月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 4月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初と変わらず、ホームを「自分の自宅の様に」の想いの元、入居者様と職員が信頼関係を築き共に生活している。
 今後は、入居者様やご家族様以外にも、医師・市役所との関わり合いを深くするための取り組みも始めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かで富士山が一望できる場所に立地している。敷地内に同系列の小規模多機能型居宅介護事業所 楽寿 北山が併設され、事業所管理者とケアマネジャーが業務を兼任している。法人理念「豊生 共生 明生」～心豊かに、共に明るく過ごせるように～を掲げ、倫理規定で行動指針を示している。今年度の事業所目標「いつも笑顔でclose family～仲良し家族～」を目指し、職員から利用者との距離を縮めて傍で見て聞いて話すように心がけている。第2の家族になりたいとの思いから、職員全員が家族ならではの距離感を大切にしている。家族として日々を過ごししながら、毎月のモニタリングで状況変化を見守っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サンセイの理念をベースにし、ホーム内でも目標を掲げ日々取り組む様にしている。	法人理念達成のための行動指針を倫理規定で示し、ホームページで公表している。事業所年度目標「いつも笑顔で 仲良し家族」を踏まえ、その日の目標を「職員の心得15カ条」から抜粋している。業務日誌に目標を明記し、共有と確認、また意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、地域の方との交流が現状出来ていない。隣接する施設の方やご近所の方との挨拶を交わす程度の関わりになっている。	季節折々の事業所内行事は従来通り開催しているが、地域関係者に対する案内は自粛している。隣接する障害者支援施設にリサイクル用の段ボール等を提供し、顔を合わせた際には新型コロナウイルス関連等の情報交換をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各施設の管理者が、救命救急の講習を受けたので地域の避難訓練等の際要望があれば行える体制を整えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を行い、ホームの近況や状況を報告し参加者の皆さんの意見をや情報を今後の運営に反映させています。今年もコロナの影響もあり、書面開催でした。報告のみとなっている。	現在は、活動報告や活動予定等の書面を議事録として地域関係者に届けている。今後は、年度代わりに市担当者の確認と挨拶を兼ねて窓口に出向いたり、議事録提出時に顔つなぎを行うなどして関係継続に努めていく考えである。	議事録は家族全員に毎回配布し、職員全員に内容を周知することが望ましい。活動報告等に加え、第2の家族として家族の思いに寄り添った内容を記載するなど、議事録の充実化が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、協力関係や情報交換を図っています。今年もコロナの影響もあり、書面開催でした。報告のみの形となっています。	現在はオンラインで年2～3回程度であるが、市の小規模ホーム部会で情報交換の機会がある。市窓口に出向いて介護相談員派遣事業に関する情報収集を行い、事業所全体でメリット等について検討していく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を引き続き掲げ各職員が意識し取り組んでいます。	定期的な委員会は実施していないが、サービスの質の向上に向けた取り組みとして法人全体で介護サポート研修を実施し、チェックテストで理解度を確認している。検討が必要な事項は時間を置かずミーティング等で取り上げ、内容を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	15ヶ条に掲げている。「自分がされて嫌な事はしない」を徹底して介護するように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利を侵害しない様に、配慮している。 日常生活自立支援事業についても、知識を深め対応出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、解約や改定についてご家族との話し合い説明の場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内を家族に送付しています。欠席の場合でもご意見やご要望なども返信の際伺う様にしています。今年はコロナもあり書面開催が多かったため、こちらから報告・連絡をこまめにするように心がけていた。	前回ステップの家族への手紙やアンケートは実現していないが、少しの変化であっても家族に連絡している。面会等で本人の健康状態や共同生活の様子を確認する家族に真摯に対応しており、職員の丁寧な対応への感謝の気持ちが外部評価家族アンケートより確認ができた。	運営推進会議議事録を家族との距離を縮めるためのツールとして活用したい。例えば新型コロナウイルス情報、面会状況、普段の食生活等について記載等が考えられる。また家族が意見等を出しやすい方法を検討することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の場や、日常業務において申し送りにて共有シートを活用し意識の統一を図っています	前回の課題であった休憩室の使用方法については、職員の勤務状況や気持ちを考慮して納得する形を継続して検討している。利用者に寄り添う時間を優先させる職員の気持ちに、少しでも応えようとする管理職員の配慮が良好な関係性を窺わせた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に、自己評価表を記入して頂き、管理者は職員との面談する機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で、職員育成のプログラムを用意し常に、スキルアップやモチベーションアップを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会に参加し、研修会や交流会にを通して他事業所との交流に取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際、アセスメントやご家族様に生活暦等の話を聞き少しでも、ご意見やご要望を把握するようにしています。 ご本人からも、話を聞き気持ちを汲み取るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、要望があればご家族と面会し施設の見学を兼ねて現在の状況や要望を伺っています。 その後も、常時相談に応じ信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや、ご家族様からのお話し病院からの看護サマリー等の情報提供を素に状態を観察しサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを重視し、家事や掃除等その方が出来る事を見つけ、一緒にして頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や個人的な日用品等の用意はご家族にして頂き、面会時や定期的なお便りを通じて様子を伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも、常に面会の受け入れをしています。 コロナの為、時間は制限しています。 年賀状を作成しご家族に送付しています	家族との面会は、玄関外で消毒を済ませて玄関内で検温を行い、2m程距離を取って10分以内で実施している。事業所への支払い時には、家族全員が利用者と顔を会わせて話す機会がある。馴染の美容室に通う利用者1名の送迎は、継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの状況・状態を職員が把握し状況に応じ対応している。 お互いに、良い関係を保てるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援に努めている。 ご家族からの、問い合わせ等にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からお話を伺い、本人本位の支援が出来るように努めている。 ご本人にも話を聞き思いを汲み取るようにしている。	本人の思いや意向を把握するためには、日常の関わりの中で発語を誘うことが大切と考えている。利用者と目線を合わせて発語を誘い、行事やレクリエーションでも意思確認を行っている。担当者からの情報や家族の意見等も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様に馴染みの暮らし方や生活状況を伺っている。 居室に馴染みの物を持ち込み、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のそれぞれの過ごし方や、状況をケア日誌に記録し現状把握に努めている。 職員間でも、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族と話をしご意見やご意向を確認している。 日々の、共有シートに記載し、それらを介護計画に反映させています。	介護計画の援助内容やモニタリング表の考察には、状態や程度の副詞を用いて本人の様子がわかりやすく記入されている。毎月モニタリングを実施し、短期目標の達成度の確認と評価を行っている。理念に則り、家族のように常に状況変化を見守っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個々の様子や状況を記録し共有シートを活用し情報を共有しながら、ケアや介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の、状況や認知症の症状を把握し、臨機応変に対応できるようにしています。 ご家族の、要望にも柔軟に対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の中にお野菜を収穫しホームに持ってきてくださる方や、自家発電機を設置したので地域防災の拠点になれるようもっと地域との繋がりをもちたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居者様とご家族様の意向を重視して、基本的に受診はご家族様にして頂いています。 必要に応じて、職員が同行・対応することもあります。	全員が入居前からの主治医をかかりつけ医として、6人が週2回の定期往診で3人が週1回受診している。受診時には1週間の情報提供書を家族に託し、裏面で医師からの診療報告を受けている。定期往診の場合は24時間対応で、受診の場合は緊急時に救急要請をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を中心に体調や健康の管理をさせて頂いています。同一敷地内の小規模多機能に所属している看護職とも連携を図り、各かかりつけ医への相談等にて対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、病院側に必要な情報提供をするように努めています。 退院時には、状態や生活上の注意点等の指導をお伺いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りについての説明をし意向の確認書を用意しています。 重度化・終末期を迎えるにあたり、再度意向確認・看取りの承諾書を頂きます。 協力医・かかりつけ医との連携をとりチームケアに取り組むよう努めます。	「入居のしおり」内の看取り介護の取り組みについては、家族が安心して同意できる説明がされている。業務上の反省はもとより、長い看取り期間において家族としてどう関わっていたかの振り返りを大切にしている。今年度は2人の看取り支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内・外の研修で応急処置や初期対応について研修しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施しています。 結果等は、会議などで発表し皆で検討しています。	事業所周辺は特に危険とされる要素はなく、ハザードマップで想定される災害もない。定期的に夜間想定訓練を取り入れ、7日程度の食糧や衛生用品・貯水タンク・発電機・ガスコンロ等を準備している。利用契約書に「業務継続計画」の条項があり、ガイドラインによる対応を明言している。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し、敬意を払いプライバシーの保護に気を配っています。 ホームページを開設するにあたり、各ご家族に同意書をもらっています。	倫理規定において、「人としての尊厳と権利を尊重します」を第1に定義している。声が大きくならないように、職員から利用者の傍に寄り「～さん、どうしましたか」と話しかけている。羞恥心への配慮として、トイレで使用中や空いてますの札を活用しており、自ラ札を交換する利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が、気軽に自分の気持ちや思い・希望を話せるような環境・人間関係に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間割はありますが、入居者様のペースに合わせて生活出来るように支援しています。 個々の希望を重視し対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回髪をカットして頂き、爪や髭もこまめに整容しています。 洋服も、入浴の際など可能な限り本人の意向をくむようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は手作りで、家庭的な料理を提供しています。 職員も、一緒に食事をし会話をしながらたべています。	毎食が職員の手作りで、利用者の好物をメニューに取り入れている。プランターで育てた旬の野菜等を利用者と一緒に収穫し、食材に加えることもある。病気で少量の食事を日に6回摂る人には、少しでも充実感を味わえるように試行錯誤しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事の摂取量や水分摂取量を把握しケア日誌に記録しています。 献立も記録し食が偏らない様に工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い夕食後は義歯を外して、洗浄液に浸け置きにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシート・排便チェックシートを使い個々のリズムを把握し声掛け・誘導・介助を行っている。	24時間シートを活用し、全員の排泄パターンを把握している。本人の「う～ん」の発語により職員が声掛けする等、個々の仕草やペースに合わせてスムーズに誘導できている。余裕を持った介助を心がけ、転倒防止や失禁予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・運動等を考慮し可能な限り自然な排泄を促進しています。 トイレに、足の高さを調節する台を置き腹圧が掛けやすいようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する曜日を設けさせて頂き、最低でも週に2回は入浴できるようにしています。状況に応じて随時対応しています。完全個浴で対応しています。	お湯は個々に交換し、湯温は実際に触って微調節している。浴槽の出入り時に二人介助する等で安全に配慮したり、本人が手足をゆっくり動かす間は手で支えながら、タイミングを待って介助したりしている。安心して気持ち良く入浴してもらえう事を第一に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人が、自由に休息したり就寝しています。 状況・状態に応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々のファイルに薬情を保管し、当日の薬をセットする際にも確認が取れるよう、薬カレンダーの中にも薬の数、内容がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の、残存機能を活かし、極力出来ることはして頂き家事等のお手伝いも一緒にお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は外にドライブに出掛けたりします。 入居者様が、ご家族と自由に外出・外泊することも行えます。 ※現状はコロナ禍の為、控えています。	事業所周辺の散歩等は高齢化により困難な状況であるが、洗濯干しの際に一緒に日光浴をしたり、庭でお茶を飲んだりしている。最近、ようやく車で花見に出かけて青空の下で食事を楽しむことができた。今後も可能な範囲で外出支援を行っていく予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は、基本的には金銭を所有はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末に、家族に年賀状を送ったり面会時ホームに日々の写真を掲載するなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日施設内を、丁寧に清掃し清潔な環境を整えています。 気温等に配慮し室内の温度を調整し快適に過ごせるようにしています。	居間で恒例の季節行事やレクリエーション等を行い、一人でクロスワードをする人もいる。共同制作物等は季節折々で入れ替え、現在夏バージョンに取り組んでいる。居間で落ち着けるように、飾り付けはシンプルにしている。可動式の生花の鉢植えは、シチュエーションに合わせて移動させている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に席は決まっていますが、入居者様の状態や状況に合わせて席を替えています。 ソファも配置を変えたり、自由に座ってもらっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に、備え付けのタンスを用意してありますが必要に応じて自宅から使い慣れた家具を配置して頂いています。 衣替えは、ご家族にお願いしています。	起床時また就寝時には、本人の動作に合わせてゆっくり日常着やパジャマに着替える介助を行っている。昼食前後に居室のベッドで休む人がある。安全第一の配置で、コルクボードに写真等を貼っている人がある。衣服は玄関で家族から受け取り、職員が収納している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に、「空室」「使用中」の札を掛けトイレを使用する際に変えて頂くようにしています。 フロア内も極力不要な物を除き転倒予防に努めています。		